

# 食育しんち

子どもたちの健やかな成長を願って

新地町教育委員会

## 『いただきます』

新地町立新地小学校 校長 荒 博史



小学校6年生の国語科の教材に、宮沢賢治の『やまなし』があります。この作品は、小学校6年生にとっては少し難解な教材です。でも、この作品を「命」をキーワードに読んでみると、自然の摂理や賢治の思想が見えてきます。

「やまなし」は、5月と12月の谷川の底の情景(二枚のスライド)を、カニの兄弟の目線で描いた作品です。5月の谷川は、様々な生き物がいきいきと暮らす世界です。

そんな中で、クラムボン(正体不明)が魚に食べられ、その魚をカワセミが食べるという「生きるための戦い」が描かれています。

一方、12月の谷川は静寂に包まれています。その静寂を打ち壊すように谷川に落ちてきたやまなしが、カニの兄弟や父親に芳醇な香りとお酒という喜びを与えます。

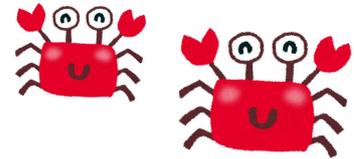
私たちは、5月の谷川に生きる生き物たちと同じように、日々、他の生き物の命をいただいて生きています。12月のやまなしのように、自己を犠牲にしてまで他者のために尽くすことは、容易なことではありません。

最近、はせがわゆうじさんの『もうじきたべられるぼく』という絵本を読みました。この絵本に登場する子牛は、自分の運命を受け入れながらも、母親への愛情と、命の尊さを私たちに教えてくれます。

子牛の最後の言葉「せめて ぼくをたべた人が 自分のいのちを大切にしてくれたら いいな」は、私の心に深く響きました。

「いただきます」という言葉は、単に食事を始める合図ではありません。この言葉には、「食事を作ってくれた人、食材を育ててくれた人、命をくれたみんなに感謝します。」という、たくさんの想いが込められています。そして、何よりも「たくさんの命をもらったぶん、自分の命を大切にします。」という誓いの意味も込められているのです。

これからも、「食」を通して、子どもたちが、食の大切さ、人とのつながり、自然の恵み、そして命の尊さを学び、健やかに成長できるよう、家庭と学校が協力し合いながら共に歩んでいきましょう。



## 第11回さわやかだわが家のおすすめ料理コンテスト

### ～ わが家のおすすめ減塩料理 ～



寄せられたアイデア満載の素晴らしい「レシピ」に審査員並びに調理に携わって頂いた本町調理員ともども感動いたしました。味付けにとってはハードルとなる「減塩」という課題を乗り越え、見事に入選した作品を別紙に紹介いたします。

本町各学校の給食では「減塩」に気を配り、1食あたりの食塩量を小学生では2.0g未満、中学生で2.5g未満としています。応募された全ての皆さまの「作品＝レシピ」は、おいしさ減塩を両立させる「新地町のおいしい給食づくり」に大いに参考となりました。

紙面を借りまして御礼申し上げます。

なお、栄えある入賞者の皆さんを11月10日(日)に開催される「新地町健康福祉まつり」にて表彰いたします。

たくさんのご応募ありがとうございました。最優秀賞と優秀賞の作品は、2学期の給食に提供する予定です。楽しみにしててください(\*^▽^\*)

